

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回枚方市事務事業効果測定指標評価員会議（WEB会議）
開 催 日 時	令和2年9月18日（金） 午後1時30分～午後2時55分
開 催 場 所	WEB会議（枚方市役所別館4階 第4委員会室）
出 席 者 （ 参 加 委 員 ）	山谷清志評価員、掛谷純子評価員、上森太一郎評価員
欠 席 者	—
案 件 名	1. 評価対象事務事業（案）について 2. 指標等の評価方法について（所管課ヒアリング実施要領含む） 3. その他
提出された資料等の 名 称	次第 資料1 評価対象事務事業（案） 資料2-1 指標等の評価方法について（案） 資料2-2 個別事務事業評価シート（例） 資料2-3 制度評価シート（案） 資料3 今後のスケジュール（案）
決 定 事 項	1. 評価対象事務事業を決定した。 2. 指標等の評価方法について決定した。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	0人
所 管 部 署 （ 事 務 局 ）	総合政策部 行革推進課

審 議 内 容

開 会

○事務局 それでは定刻になりましたので、始めさせていただきます。
会長、よろしくお願いいたします。

○座長 それでは、ただいまから、第2回枚方市事務事業効果測定指標評価員会議を開会します。
まず、事務局から、本日の資料や進め方等について、説明をお願いします。

○事務局 本日の資料についてですが、事前にメールでお送りさせていただいているものと同じ資料になりまして、本日の会議の次第を記した次第書と、**資料1** 評価対象事務事業(案)、**資料2-1** 指標等の評価方法について(案)、**資料2-2** 個別事務事業評価シート(案)、**資料2-3** 制度評価シート(案)、**資料3** 今後のスケジュール(案)となっております。過不足などございませんでしょうか。

案件1 評価対象事務事業(案)について

○座長 それでは、案件に移ります。
「案件1 評価対象事務事業(案)について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

○事務局 それでは、案件1「評価対象事務事業(案)について」、ご説明します。
資料1をご覧ください。事務事業を事務局で抽出、一覧化したものに各評価員からいただきました意見を記載したものでございます。

表の見方としましては、表の左から、事務事業名称、部課名、一般事務事業か非選択事務事業かなどの区分、その隣が、所管部署と当課で意見が分かれている項目の名称の欄となっております。その次の当初案とありますのが、昨年度、ロジックモデルを設定した際に、所管課が設定した内容、その隣の行革案とありますのが、その当初案に対する当課の案を記載しております。これにつきましては、所管課が設定した当初案に対して当課として異論がない場合は当初案をそのまま転記をいたしております。

また、その隣の所管課最終案とありますのは、今回、指標等の検証に当たりまして、所管課で分析シートを用いて分析を行った結果、所管課として最終的に設定したいと考えている案を記載しております。これには二つのパターンがありまして、当初案と行革案の意見が分かれている場合に、所管課が新たな案を示しているパターン、それと、当初案に対して当課としましても異論なしとしている場合に、所管課が新たな案を提示しているパターンということでございます。

次に、その隣の評価分類については、表の左上に記載しております①から③の分類について、

事前に各評価員にご確認をいただいた結果をその隣の評価員記入欄に記載をさせていただいております。

最後に、一番右端の評価分類（案）には、各評価員のご意見を踏まえ、修正させていただきました評価分類（案）をお示ししております。この後、評価員の皆様方で評価対象とする事務事業の選定や評価分類につきまして、考え方の共有やご議論をいただき、それらを踏まえて、市において最終的に決定してまいりたいと考えております。

なお、この間、各評価員の先生方に評価対象事務事業の選定や評価分類の確認を行っていた中で、幾つかご意見をいただいておりますので、ここでまず、ご意見に対する事務局の考え方をご説明申し上げ、続けて、各評価員からの評価分類の修正案に対し、対応案についてご説明をさせていただき、その後、考え方の共有やご議論に移っていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

では、表をごらんいただきまして、まず、各評価員の皆様からご意見に対する事務局の考え方についてでございますが、一つ目のご意見としまして、「ロジックモデルは全ての事務事業になじむもの、活用できるものではない。」というご意見をいただいております。

これにつきましては、ロジックモデルの導入及び指標設定には、効果測定、例えば、事務事業の見直しを行う上での効果測定ですとか、モニタリング、経年推移としてのデータですとか、これまで把握してこなかったデータの収集、当事者の意見の収集のきっかけになるなどの効果を期待しているところもございます。全事務事業にロジックモデルなどを導入することの是非、また、所管課の負担とのバランスをどう取るかにつきましては、今後の検討材料と考えておりまして、所管課とのヒアリングや評価を進めていただいた上で、制度や仕組みのあり方として助言をいただき、それも踏まえまして、最終的に市として方針を決定してまいりたいと考えております。

次に、二つ目のご意見としまして、「インフラ整備事業は一般事務事業との位置付けからアウトカム指標を設定しているが、インフラ整備にアウトカム指標を設定するのは難しく、アウトプット指標までとするのが妥当ではないか。」とのご意見でございます。

これにつきましては、市に実施の判断や選択の裁量があることから、一般事務事業に位置付けておりまして、また、国の補助金申請等の際にアウトカムの設定を求められる場合もあるというふうにお聞きしております。

一方で、インフラ整備が社会や地域に及ぼす効果を正確に把握・測定することの難しさも感じているところがございますので、先ほどと同様、ヒアリングや評価を進めていただいた上で、こういった点についてもご助言をいただき、指針に盛り込む形で取りまとめてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、評価員の皆様からいただいた評価分類の修正案などに対する対応案などについて、説明をさせていただきたいと思っております。評価員記入欄と評価分類（案）の記載が異なる事務事業でございまして、黄色い網掛けをさせていただいている事業でございまして、

なお、そのほかの事務事業につきましては、事務局案に対して各評価員からご意見がなかったもの、あるいは、評価員からのご意見のとおり修正させていただいたもの、また、評価員から評価対象として新たに追加いただいたものでございます。事務局としても異論がないものでございますので、説明については省略させていただきたいと存じます。

では、まず一つ目といたしまして、「No. 10 家庭児童相談業務」をごらんください。

この事業の概要としましては、子どもへのプレイセラピーや発達検査、保護者へのカウンセリング等を通じて、児童虐待の防止や対応を行っているものでございまして、アウトカム目標として、「適正な親子関係を育み、相談終了となった件数」を設定しております。当課といたしましては、事務事業実績測定において令和元年度実績が245人となっており、実績度が100%を大きく上回っておりますので、令和2年度以降の目標値は見直すべきと考えております。

こうした目標を達成したものの、次の目標に及んでいないケースについてはほかにもございまして、それらについては、ヒアリングを行わない評価対象である②としておりますが、目標の再設定の考え方については、今後作成する評価まとめや指針にも盛り込んでまいりたいと考えておりますので、当該事務事業については、その代表例として、①のヒアリング対象として分類をさせていただいたかどうかと考えております。

次に、「No. 42 個人情報保護制度運営事業」になります。

この事業の概要としましては、保有個人情報開示請求への対応や番号法に基づく特定個人情報保護評価の実施、保有個人情報保護及び安全管理などに関する研修の実施でございまして、非選択的事務事業としてアウトプットまでの設定となっております。本事業につきましては、所管課から当初案の「漏えい等の事案発生件数」に変えて所管課最終案の「保有個人情報の保護に関する研修の効果測定の正答率」を提示してきております。めざす姿としましては、「漏えい等の事案が防止されている状態」となっておりますので、それを特定するためには、やはり「漏えい等の事件発生件数」を示すべきではないかと考えてございまして、所管課最終案との複数指標の設定することについてご助言をいただきたいと考えております。こういった点から、②の評価分類にさせていただいております。

続きまして、「No. 67 スポーツ推進事業」をごらんください。

この事業の概要としましては、スポーツ推進計画の推進等に関する調査審議を行うための審議会の運営、並びに同計画に基づく体力づくりや健康増進、介護予防など、スポーツ振興に関する事業の総合的、計画的な推進を行うこととございまして、アウトカム事業について、当初案の同計画の進捗を測る指標に替えて、当初の施策から拡充や見直しを図った事業の割合を提示しておいております。これについては、同じ事務事業の次のNo. 68のインプット指標とNo. 69のアウトプットロジックでも、当初案からの変更案を提示してきております。そうした点と、当初案について、当課としても再考の余地があるのではないかと考えていることから、①のヒアリング対象に分類させていただいております。

次に、「No. 75 枚方市スポーツ協会加盟団体活動補助事業」でございまして。

こちらの事業の概要といたしましては、市民のスポーツ活動の振興を図ることを目的に、枚方市スポーツ協会に加盟する団体に補助金を交付するというもので、アウトカム指標について当初案、行革案と異なる所管課最終案を提示してきているものでございます。

なお、評価員よりスポーツなど市民の選好に左右される事業については、ロジックモデルの設定はなじまないものではないかのご意見をいただいておりますが、特に補助金につきましては、これまでから見直しに関する方針を策定しまして、サンセット方式の導入や必要性や有効性などの視点からの見直しを実施してきてございまして、今後は事務事業実績測定においてその効果測定を行っていくことも検討していきたいと考えているところでございます。また、当初案についても、先ほどと同じように、当課として再考の余地はあると考えていることから、①のヒアリング対象に分類させていただいております。

次に、「No. 84 成年後見人制度活用推進事業」でございます。

この事業の概要としましては、成年後見制度の後見人について、専門職や社会福祉協議会以外で本人と親族関係のない後見人の新たな担い手として、市民後見人の養成及び育成を行うもので、養成講座の開催やバンク登録者への研修などを行っているものでございます。当初案、行革案でお示ししている市民後見人の新規受任件数につきまして、対象件数の発生の有無などに左右され、市の取り組みの努力が実績値に反映されるものではないということを理由に、別の指標を提示してきているものでございますが、こうした外的要因に効果が左右される事業について、指標設定の考え方をご助言いただきたいと考えまして、②の評価分類にさせていただいております。

次の「No. 110 特定不妊治療費助成事業」と「No. 114 不育症治療費助成事業」につきましては、併せて説明をさせていただきます。

事業の概要につきましては、それぞれ特定不妊治療を希望する市民、不育症の夫婦に対し、その費用の一部を助成するというものです。助成事業としての性格上、その助成を受けた市民がどのように感じているかを特定できる指標設定が最も好ましいと考え、行革案としまして、「助成支援により経済的負担が軽減したと感じた人の割合」を提示しておりますが、助成制度の性質上、申請者にはアンケートの協力依頼を行いにくいとの所管課の意見も踏まえ、より良い指標設定についてご助言いただきたく、②の評価分類にさせていただいております。

なお、No. 84、No. 110、No. 114につきましては、アウトプットについて市のコントロールを及ぼしづらい事業であり、評価員からもロジックモデルの設定になじまない旨のご指摘をいただいているところですが、市としては、そういった事業についても市民の役に立つ、市民が使いやすい制度となるよう、チェックや見直しが必要と考えており、ロジックモデルや指標設定をその取っかかりとできないかと考えております。評価員の皆様におかれましては、そのあたりもお汲み取りいただきまして、アドバイスをいただければと考えております。

次に、「No. 173 地球温暖化防止対策事業」でございます。

この事業の概要としましては、事業者との連携による地球温暖化対策の実施、環境に関するイベントやキャンペーンの開催による地球温暖化防止を中心とした環境保全意識の市民への普及、啓発でございます。アウトカム指標の所管課最終案を変更してきているもので、より適切な指標が設定されていると考えておりますが、毎年度、実績の測定が可能なのか疑義があります点と、このような非常に大きなテーマの取り組みについて指標設定の際の考え方などについてご助言いただきたく、②の評価分類とさせていただいております。

最後に、「No. 61」に戻りまして、「農業振興事業」でございます。

こちらについて、補足させていただきたい事項がございますが、本事業につきましては、エコ農産物の普及啓発や即販会の開催などを通じて、意欲的な農業者を支援し、地場産の普及等につなげようとするものでございます。事業の実施手法などを検討するに当たり、その効果をより適切に図ることができる指標の設定に苦慮しているというところございまして、そのため、ヒアリングにおいて事業内容などを詳しくお聞きいただいた上で、より良い指標設定についてご助言いただきたいと考え、①の評価分類にさせていただいているものです。

評価員の皆様からいただいた評価分類の修正案などに対しまして、事務局としては異なる対応とさせていただきたいと考えております事務事業についての説明は、以上となります。

また、資料の1枚目の左上に記載しておりますとおり、評価対象事務事業の総数といたしま

しては、①のヒアリング対象が26事業、②の資料確認により評価いただきたいと考える事業が56事業、③の評価がお示しする内容についてご確認いただきたいと考える事業が40事業、現時点での評価対象とする事業の総数は122事業となっております。

以上、事務局としての考えについて説明をさせていただきましたが、各評価員の皆様におかれましては、専門的見地からさまざまなご意見があるかと存じますので、そういった考え方の共有ですとかご議論をいただき、それらを踏まえた評価対象事務事業の選定にしていきたいと思いますと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

また、「資料3今後のスケジュール」のほうでもお示しをしておりますが、本日の説明やご議論を踏まえて、最終的な選定をいただきたいと考えております。恐れ入りますが、今月末、9月28日をめどに、選定事業の一覧をご送付をくださいますよう、よろしくお願いいたします。なお、様式については、この会議終了後にお送りさせていただきたいと考えております。

以上でございます。

○座長 はい、ありがとうございます。

それでは、今から、事務局から説明いただいた内容につきまして、評価員の皆様のほうから、評価対象とする事務事業の選定内容、考え方などについて、ご意見、ご質問がございましたら、どうぞよろしくお願いいたします。

○OA委員 私のほうから1点なんですけど、全部で122というのは、3人で122事業すべてを評価するということでしょうか。

○事務局 3人の先生方にそれぞれ評価いただければなと思っております、①のヒアリングにつきましては、26事業②の書面によるものが56事業となります。

○OA委員 そこなんですけどね、26ぐらいだと、そちらに行ってヒアリングする、回数かけてやってもいいんですけど、②までという話になると、今、国の政策評価と行政事業レビューをやっているんですけど、この二つセットにしたような作業量が多すぎるように思います。これが1点です。

2点目は、いろいろこちらが提案した内容に対して、①、②、③の評価分類について口頭で説明されたのは聞いていて何となくわかったんですけども、これを別表みたいに表にして作ってもらえないかなと思います。それを見て、私が提案したものと事務局の意見が異なる点についてはもう一回確認したいというところがあります。

3点目なんですけども、これも意見になりますが、専門家の意見でとおっしゃっているんですけども、実は、私は市の仕事は余り詳しくない。むしろ枚方市の方々のほうがよくわかっている話ですよ。いろいろな事業があつて、いろいろな仕掛けがあつて、国からの補助金はどうで、公共事業なんかもそうですけど、国に要請したときに、国からのアウトカム指標を求められているので、それをやっぱり書かなきゃいけないとか、そういうことは余り知りませんので、専門的な立場から意見をするのは難しいという印象です。

○事務局 わかりました。3点いただきましたご意見の中で、まず一つ目の、評価対象と

する事務事業数が多いということがございました。ご評価いただいた後、市でまとめていきたいというふうに考えてございます。特に②の部分については、この56事業をすべて見るということではなくて、もう少しご負担のないようにジャンルごとに分類するなどして、改めてお示しさせていただければと思います。①については、そのまま26事業ということでございますので、ヒアリングをしていただければどうかと思いますが、26事業の中でもこれは必要ではないのではないかとか、これは②や③でもいいんじゃないかというご意見について、そこは最終的には先生方のご決定に合わせていきたいというふうに考えております。

OA 委員 ほかの委員の先生方、ちょっと提案を申し上げたいんですけども、こういうことはいかがでしょうか。①に関しては26ありますけれども、それを4つとか5つとかでカテゴリーに分けて、そのカテゴリーの中で、この事業、この事業、この事業を見てほしいと。ポイントが大体一緒になると思います。②の56も、やはり56を一個ずつ見るのではなくて、こういうところを見てもらいたい事業、これが10個ぐらいあるとか、別なことを見てほしい事業、これが5つぐらいあるとか、そういうグループ分けをしたら、我々も個別に見ていく負担感というのが結構軽くなると思うんです。そこはぜひ検討していただきたいんですけど。

○事務局 わかりました。

OB 委員 今のご提案に賛成です。やはり新しいことをされるということで、事務局の方もいろいろと試行錯誤されながらではあると思うんですけども、我々も本当にある意味外部であるからこそ見える部分もある一方で、内部の皆さんだからこそ見えるところも結構多いという中で、必ずしも我々が考える指標が正しいわけでもないと思います。その点はヒアリングなりの議論をしながら、一定、より正しいであろうロジックモデル等々を話をしていければいいかなと考えております。

OC 委員 私も基本的には同意見でございまして、個別の事業を見ていくということのも大事なんですけども、一番大事なのは、見直していかないといけない観点といいますか、視点というものを抽出していったら、それを最終的な報告書にまとめていくということなので、同じような傾向の同じジャンルの指摘に関して、今、幾つも確認するということは余り生産的ではないかなというふうには思っておりますので、そういう観点で少しご検討いただければというふうに思っております。

ちょっと私のほうで実は追加の事業を選択させていただいたものが幾つかあって、思いつく範囲で10個ぐらい挙げてみたんですけども、傾向の偏った、似通っているものもありますので、このあたりはまた改めて取捨選択していただけたらいいかなというふうに思っております。

○座長 ありがとうございます。今、それぞれからもお話いただきましたように、何か仕掛けを考えていただいて、グルーピングか何か、要するに見る視点、観点に合わせた形でガイドラインを作られたら、後は自動的にいきますので。そのところをちょっと工夫していただきたいなど。特に①、②に関しては。そこはお願いします。

○事務局 はい、わかりました。改めてまた示させていただきたいと思います。

○座長 そうすると、今私を含めて3人の評価員からの意見を踏まえて、9月30日までの予定はどうなりますでしょうか。

○事務局 当初、①や②について、評価対象とするもの、しないものを9月30日までにいただければというふうに思っておりました。ただ、この議論の経過ございますので、一旦9月30日までというのは置かせていただきまして、グルーピングなどしたものをお示した上で、改めて確認をさせていただければなと思います。

○座長 はい。了解しました。ありがとうございます。

○OB委員 先ほどご説明いただいた内容の中で、ちょっとだけ質問があるんですが、227番の新名神高速道路等整備促進事業で、行革案として目標設定すべき、所管課としては設定不能というふうになっているものなんですけれども、この事務事業は、一般事務事業の中に入っているんですけれども、これは枚方市はやめようと思えばやめられるものなのですか。

○事務局 国のほうで一定進めております事業のほうになりますので、枚方市だけの判断でできない部分もあるんですけれども、事業の中身を詳しく見ていきますと、やり方という点で、市でも修正できるのではないかというような考え方でこの分類にさせていただいております。

○OB委員 そうすると、そのやり方とかそういうところで、枚方市でやれる部分があるだろうという判断なんですね。具体的にどういうところか教えていただければと思うんですが。

○事務局 具体的には今申し上げにくいのですが、個別シートの方で事業の詳細を確認させていただきたいと思います。

○OB委員 わかりました。私の方でも確認してみます。

○OA委員 これはすごく大事なお話で、要するに、枚方市でやめようと思ったら、すぐやめられるようなものっていうのは、こういう事務事業評価にすくなじむんですよね。ところが、法律とか法定受託事務が絡んできたり、あるいは、府との関係であったり、できないものに関してやめる、やめないはもう言えないし、そうなってくると、結論は簡単で、やり方を変える。ちょっと今お話がありましたけど、そうすると、もう少しお金のかけ方をちょっと変えろとか、そのくらいの話しかできないわけですよね。そこがね、事業がざっと100ほど並んでるんですけど我々も時間が余らないので、そこまで見てないわけですよ。そうすると、今おっしゃったように、我々のアドバイスがポイントを外してしまって、ピントがずれてるときがあるわけですよね。だから、少し簡単な例としては、これが枚方市の単独事業なのか、それとも、そうじゃないのかしるしをつけてもらえば、もう少しわかりやすかったのかなと思いますけどね。

今さら言うのはちょっと申しわけないんですけども。今、いいアドバイスをいただきまして気付いたので。可能な限り、今後、それをやってみてください。お願いします。

案件2 指標等の評価方法について（所管課ヒアリング実施要領含む）

○座長 それでは、次の案件に移ります。

指標等の評価方法についてを議題にします。それでは、これについて、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、担当からご説明させていただきます。それでは、資料2の1になります。

まず、1の評価の対象でございます。

対象としましては、「①個別の事務事業に係るロジックモデル、指標、目標の設定などについて」併せまして、「②事務事業実績測定等の制度内容」についてもアドバイスやご提案をいただければというふうに考えております。

次に、2の個別の事務事業に係るロジックモデル、指標、目標設定等の評価方法についてですが、(1) 評価などのポイントとしましては、資料にございます内容について評価やアドバイス、提案をいただければと考えております。

まず、一つ目ですが、「各事務事業の事業概要やゴール（目指す姿）とロジックモデルとの関連性」としまして、各事務事業が設定しているゴールに向かってロジックモデルのインプット、アウトプット、アウトカムがしっかりと関連性を持って設定されているかをご確認いただきたいと考えております。

次に、二つ目、「より効果等を測定できる指標の判定」ですが、各指標について、所管課案と行革推進課案を比較していただき、各事務事業の効果をより測定できるであろう指標をジャッジいただくものでございます。

三つ目、「より良いロジックモデルや指標設定等に関するアドバイスや提案」ですが、所管課案や行革推進課案の判定とは別に、各事務事業の効果測定等に最適なより良いロジックモデルや指標設定を評価員の皆様の専門的な見地よりアドバイスをいただければと考えております。

四つ目、「各指標に係る目標数値設定の判定及びより良い目標設定に関するアドバイスや提案」といたしまして、各事務事業に係る目標設定の考え方についてアドバイスをお願いするものです。

最後、「横串の視点からの指標設定等に関するアドバイスや提案」としまして、第1回でご説明いたしました事業分類の視点から、各事務事業のカテゴリー分けした場合に、横串の視点として類似のカテゴリーごとに指標設定が考えられないかについてアドバイスをお願いするものでございます。これにつきましては、今後、事務事業に新たに指標設定を行う際に、指標を検討する取っかかりとして、カテゴリーごとの類型が活用できないかといった考えによるものでございます。

次に、(2) 具体的な評価手順でございます。

まず、資料確認ということで、対象事業の概要等をまとめました資料を「個別事務事業評価シート」としまして、10月初めごろに送付をさせていただきます。その時点で内容をご確認

いただきたいと思います。評価シートの内容に疑義等がございましたら、質問事項一覧やメール等で事務局までご質問をご送付ください。

所管部署等から回答がございましたら、各評価員へ返送をいたします。その後、ヒアリング対象事務事業については、ヒアリングを実施いただきます。なお、ヒアリングを行わない事業につきましても、資料の内容や質問事項のやりとりなどを通じましてご評価をいただきたいと思いますと考えております。

その後、追加の質問等のやりとりを経まして、「個別事務事業評価シート」の評価部分をご作成いただき、ヒアリングを実施した事務事業分と実施しなかった事務事業分併せて11月6日ごろを予定といたしまして事務局までご提出をお願いしたいというふうに考えております。

なお、お願いします個別事務事業評価シートのイメージにつきましては、資料2-2としてご用意しております。

まず、事業概要のページでございますが、「(1)の事務事業の概要」としまして、各事務事業の区分やターゲット、ターゲットが抱える課題、あるべき姿、事業概要を記載しております。

次に、(2)としまして、「職員配置と費用の推移」と題しております。平成29年度から令和元年度までの内容について、記載しております。

次に、ページの下の方ですが、「(3)令和元年度の実績及び今後の方向性」としまして、令和元年度の実績及び実績を踏まえた今後の方向性や取り組み方策の内容について記載しております。

次に、ロジックモデル等の一覧でございます。

各事務事業ごとに設定いたしましたロジックモデル、指標、目標数値について一覧化したもので、指標につきましては、令和元年度の測定結果についても実績として記載しております。

また、ご覧の様式では、ロジックモデルは一つのみ記載しておりますが、事業によりましては複数設定しているものもございます。その場合は、設定している全てのロジックモデル等について、こちらに記載をお願いします。

次に、3番の評価シートでございます。

「(1)事務事業カテゴリー」としまして、当該事務事業が内部向け事務なのか市民サービスなのか、市の裁量が効くのかなどを区分として記載しております。

その下の段の公約型事務事業、課題解決型事務事業、予防型事務事業、制度型事務事業、啓発型事務事業、集客型事務事業、こちらにつきましては、第1回の会議でご説明をいたしました事業分類について記載しております。

先ほどご説明しましたカテゴリーごとの類型を活用した横串の視点としてご参照いただければと思っております。

次に、「(2)ロジックモデルごとの評価」でございますが、ここは、所管課のロジックモデル等の設定案と行革推進課案を対比させているものでございます。また、所管課としての考え及び行革推進課としての考えも記載しておりますので、評価員の皆様におかれましては、これらの項目も参考にいただきながらご評価いただければと考えております。

なお、評価につきましては、「行革推進課の考え」の欄の下に評価員評価を記載いただく欄を設定しております。ヒアリングや資料の中から所管課案や行革推進課案、どちらがより効果的に効果測定ができるかの判定をいただくことや、より良い指標設定等について記載をお願いしたいと考えております。

「(3) その他の評価」といたしまして、当該事務事業についての総括的な評価や「(2) ロジックモデルごとの評価」に書き切れなかった事項を記載いただければと存じます。

繰り返しの説明となりますが、評価員の皆様にご記入いただく箇所といたしましては、評価シート、ご覧いただいておりますシートの「(2) ロジックモデルごとの評価」の「評価員評価」に係る部分及び「(3) その他の評価」の欄ということになります。よろしくお願いたします。

恐れ入りますが、資料2にお戻りいただきまして、(3) ヒアリング実施要領でございます。

①ヒアリング対象につきましては、案件1のほうでご確認いただいた事務事業のうち、①として選定された事務事業となります。

次に、②ヒアリング日時につきましては、ご覧の予定としております。詳細につきましては、後ほど「案件3その他」のところでご説明させていただきます。

次に、③ヒアリング時間でございますが、ヒアリングは部署ごとで実施を予定しており、事務事業数により変動が想定されますが、30分から60分程度を予定しております。このうち、10分程度で所管部署より事業の概要を説明いたしまして、残りの時間を質疑応答にと考えております。

次に、④ヒアリング場所でございますが、事務局といたしましては、所管部署と対面でヒアリングを行っていただくという観点より、本市にご参集いただいて会議を開催できればと考えております。こちらにつきましても、後ほど「案件3」で詳細をご説明申し上げます。

次に、⑤のヒアリング内容でございますが、「個別の事務事業に係るロジックモデル、指標、目標設定等」の評価に必要な内容を直接所管部署より聴取していただきます。そのヒアリング項目につきましては、評価員の皆様の専門的な見地等から関心事項を中心に自由に聴取をしていただきたいと考えておりますが、事務局の想定といたしましては、「事務事業実施の契機や事業概要」のヒアリングから、ターゲット及びターゲットが抱える課題、ありたい姿等とアウトカムの関係、それから、ロジックモデルにおいて、インプットからアウトカムまでの因果関係が適正かなどについて、ご確認をいただければと考えております。

次に、事務事業を実施した結果や効果の実績についてお聞きいただくことで、ロジックモデル及び指標設定のあり方や目標設定の適正性についてご確認いただきまして、最後に今後の見通しについてのヒアリングから、今後の目標設定のあり方についてご確認をお願いしたいと考えております。

次に、3「事務事業実績測定等の制度内容」の評価方法でございます。

こちらは、本市が現在見直しに取り組んでおります事務事業実績測定の仕組みに対しまして、アドバイスをいただければと考えております。

(1) 評価等のポイントでございますが、個別の事務事業に係るロジックモデル、指標、目標の設定等の評価を踏まえて、事務事業実績測定等の制度のあり方、例えば、ロジックモデルや指標設定の対象範囲などにつきましてアドバイスやご提案をお願いするものでございます。

次に、(2)の具体的な評価手順でございますが、「資料及び所管課ヒアリング等の実施」については、「個別事務事業の評価」のことを指しております。

次に、制度に対するアドバイスや提案等について「制度評価シート」へ記載をいただきます。

恐れ入りますが、資料2-3「制度評価シート」になります。

上から順番に、1の「事務事業単位の粒度について」、2の「ターゲット設定及びターゲットが抱える課題について」、3の「目指すべき理想の姿の設定について」、4の「ロジックモデル・

指標設定の範囲等について」、最後に、5の「総括評価」となります。

まず、1の「事務事業単位の粒度について」ですが、測定を行う事務事業の単位について、設定の考え方や方向などにご意見やアドバイスがございましたら、記載をお願いしたいと考えております。

2の「ターゲット設定及びターゲットが抱える課題について」ですが、所管部署のターゲットや課題の把握方法・設定方法など、またはターゲットや課題が適正かの評価方法について、ご意見やアドバイスがあれば記載をお願いいたします。

次に、3の「目指すべき理想の姿の設定について」ですが、所管部署の目指すべき理想の姿の設定方法や設定内容の適正性の評価方法等につきまして、ご意見やアドバイスがあれば記載をお願いしたいと思います。

次に、4の「ロジックモデル・指標設定の範囲等について」ですが、ロジックモデルや指標設定の範囲等について、ご意見やアドバイスがあれば、記載をお願いしたいと考えております。

最後に、5の「総括評価」としまして、まとめの評価や制度全般に対するご意見、アドバイスをお願いしたいと考えております。

なお、この評価シートにつきましても、後ほど、先ほどの評価シートと併せてのご提出をお願いしたいと考えております。

資料2にお戻りいただきまして、4の「評価内容のまとめ」でございます。

提出いただきました各評価シートを取りまとめた上で、評価まとめ（案）を作成いたします。まとめ案につきましては、各評価員にご確認をいただいた後、12月上旬に開催予定の評価員会議を経て決定してまいりたいと考えております。

説明については、以上でございます。よろしく願いいたします。

○座長 まず、委員の皆様、質問があればお願いします。

○C委員 ヒアリングに関してなんですけれども、①番の事業に関しては、直接所管の方からお話を聞いて、質問するということなんですけれども、②の事業については、これは事務局のほうで説明いただくというようなことだったと思うんですけれども、この4回の会議の中でそれも議論させていただく形になるのか。それは完全にデスクトップで資料を見て検討することになるのか。そのあたりはどういう想定なんでしょうか。

○事務局 ヒアリングにつきましては、ペーパーや、メールのやりとりということで想定しておりました。ただ、その中でもやはりしっかりと議論をしたほうがという案件がありましたら、そのような進め方も一つかなと思っております。

○C委員 ②に関しては、部署名を見てある程度理解はするんですけれども、我々はそこまで個別の事業に関して知見を持っているわけではないので、どこまで意見できるぐらいの理解ができるのかなというところがあります。

○事務局 ②の取り扱いについては、さまざまご意見をいただいておりますので、どうい

う方法で見ていただくのがよいのか、またご負担がないかというところも含めまして改めて検討させていただきたいと思います。

○**委員** はい。よろしくお願いします。

○**委員** ちょっとお聞きしたいんですけども、まず、私の理解で合っているかどうかをお聞きしたいんですが、資料の2の2でお示しいただいているところで、この評価シートの評価員評価のところに記載をしていくということだと思んですけども、その中で、評価員評価として、基本的に我々に求められているのは、その指標、ロジックモデルに基づいてその指標が適切かどうかというところを評価するというところなのかなと思うのですが、例えば、評価員指標案のところに、この指標についてはこうしたほうがいいのか、これでいいとかいうことを書き、その上の理由のところは、もし変えるとすれば、なぜ変えるのかというようなところを書いたらいいという、そんなイメージなんですか。

○**事務局** そういうイメージです。

○**委員** そうしたら、次、(3)番のその他の評価というのは、どんなものを想定していらっしゃるのでしょうか。

○**事務局** その他の評価というところがございますが、基本的には上の評価で書き切れなような備考といいますか、ここでは収まり切れなようなことで、後はこういうことを指摘しておいたほうがいいのか、こういうことは大事だというようなものがありましたら、書いていただく欄として、活用いただきたいと考えております。

○**委員** ということは、場合によっては書かない場合もあるということなんですか。

○**事務局** はい。

○**委員** もう一つ同じところでなんですけれども、ロジックモデルと指標が1対1というような形で例示として挙げられているんですけども、例えば、指標が二つとか三つとか、そういう場合は想定はされていないということですか。

○**事務局** ロジックが複数あって、指標が複数ある場合も想定をしているところがございます。

○**委員** ロジックが一つで指標が例えば複数に分かれるというのは、想定はされていますか。

○**事務局** 一つのロジックの中には一つの指標を考えておりますが、もし評価いただく中で一つのロジックモデルに複数の指標が必要な場合があるというお考えもあろうかと思しますので、そういった場合は、ぜひそういったご助言もいただければと考えております。

OB 委員 資料の2-3の制度評価シートのほうは、これは全体を通じての今回の制度、仕組みについての何か気付いたことを書けば良いということで、基本的に我々一人1枚を埋めるような形ですか。

○事務局 そのとおりでございます。

OB 委員 はい、わかりました。ありがとうございます。

OA 委員 ありがとうございます。

いい質問をしていただいて、私も頭がクリアになってきましたですけれども、そこではた気が付いたのは、さっきコメントしていただいていたところのページの下の我々が何か書き込むところでしたけれども、これですよね評価員評価、評価理由、それから、評価員指標とか。これは評価員評価ではなくて、評価員のコメントじゃないんですかね。それで、評価理由というのは、コメントの理由で、指標は、評価員指標はそれでいいんでしょうね。もうちょっと正確に言葉を使っていたかないと、聞いているほうはわからなくなりますよね。そこが1点目です。

それから、もう1点なんですけど、これも指摘された制度評価シートの話ですけれども、例えば、制度評価シートの「1、事務事業単位の粒度について」とありますよね。それは公認会計士の先生なんかを考えられると思うんですけど、自治体の事務事業って、我々がこういうところで議論して変えられるということはあるんですかね。予算とか何かとつながりますか。

○事務局 つながります。

OA 委員 つながってるなら、事務事業単位の粒度って、つまり、細かいか大きいかって、そういう話ですよね。

○事務局 そうですね。

OA 委員 これ、細かいからもうちょっと大きいくりにしようとか、何か別のものと一緒にしようとか、そういうことってできないでしょう。できるんですか。

○事務局 今までの事務事業実績測定で言いますと、事務事業の実績測定の名称と予算の科目が一致をしていなかったというのがございます。今、一つ一つの事業を評価していく上で、事務は一つですけれども、その中に二つ、三つ予算の費目がぶら下がっていたり、あるいは、一つの費目が複数の事務にぶら下がっているという事例はございました。ただ、今回、予算と事務事業の科目といいますか、そこについては、今は一致していない状況ですので、ここについてはちょっと一致をさせていくような動きを検討しているところでございます。

OA 委員 それはわかるんですけど、その一致させようとされているその努力にアドバイスをすることがあるんですか。

○事務局 この事業のくくりが、本当に考え方として適正なのかどうか、余りにも細か過ぎるのではないか、あるいは、余りにも大き過ぎるんじゃないかといった視点で、事務事業の粒度、単位について、昨年度以降、原課とやりとりをしながら見直しをやってきたところなんですけれども、その考え方に対してアドバイスをいただきたいという趣旨でございます。

○A 委員 わかりました。そうすると、役所の中でどういうことになっているのか余り詳しく知らないのですが、余り私なんか書いたときには責任がある発言にはならないですね。こうしたほうがいいんじゃないかと思っているぐらいの話になっちゃいますよね。

○事務局 ここについても、先ほどの評価とコメントの違いというところもございしますが、指針としてまとめていくために先生方ともきちんとコミュニケーションを取りながら進めていきたいと思っております。

○A 委員 外部の委員がへんてこなことを言っているよなんていう、そういうふうには思われたくないからお話をしたんですけれども。

○事務局 はい。そのようなことがないようにしたいと思います。

○A 委員 それに関して言うとね、先ほどから出てくる指標が2つ3つありますよという話とか、あるいは、ロジックが2つも3つもできますよという話も、これはだから排除しないというお話でしたよね。それはあり得るんだと。だけど、事業を担当している人は困るでしょうね、そういうことを言われたら。

○事務局 そうですね。今、考え方として、そういうところを考えておりますが、先ほどのお話もそうですが、その考え方がちょっと違うよということがあれば、そこはもう忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。所管課もそうですし、先生方もそうですが、あまり負担をかけないような形でやっていきたいと思っております。

○A 委員 なるほど。わかりました。

それから、ロジックモデルって、これは今、国の省庁はどこでも皆やることになったんですけれども、流行なんですよ。これで全て語り尽くせるかということ、そうでないんですよ。恐らく、説明のツールとしては、ロジックモデルって非常にいいんですが、頭は整理されるし、素人もわかりやすいので。だけど、ロジックモデルで語り尽くせない事業ってたくさんあると思うんですよ。先ほどから話も出てますが、枚方市が幾ら頑張っても成果が出ないものってあるし、世の中が変わると、例えば、コロナみたいなことが起きると、今までやってきたことが全然無意味になってしまうこともある。けど、ロジックモデルで説明すれば、アカウンタビリティは高まるし、わかりやすいし、一般市民も、なるほど、そういうことでやってるんだなど。でも、成果が出てない、これはしょうがないなど。世の中コロナで大変なんだとか。そういうスタンスでロジックモデルをつくるという、こういうことですよ。

○事務局 ロジックになじまない事業というものがあるのかなと思っておりますので、じゃ、なじまないものが何なのかとか、ロジックでも活用できるのはこういったところだとかというところについても、一定、我々としても考え方の軸として持っておきたいということもございます。

○OA 委員 今申し上げたように、ロジックモデルを使えばわかりやすくなる、説明材料としては、ツールとしてはすごくいいんだと。だから、もうちょっと努力して、ロジックモデル的に説明していただければありですよ。

もう1点あるのはね、やっぱりアウトカム、アウトカムとおっしゃってるんですけど、予算でアウトカムは変えられないですよ。予算で変えられるのはアウトプットまでですよ。つまり、人、臨時職員を雇うと、これはインプットですけど、それでやれるようなクラス、学校であれば何時間授業、コマ数、先生はそのまま臨時で雇った先生がコマを持てるかというのは、これはアウトプットですよ。その先は期待できないですよ。だから、私は常々申し上げているのは、そのアウトカム主義というのは結構危険で、自分でアウトカムが出ないときの言い訳に使うお役人が非常に多いんですね。だから、本当はアウトプット主義でやるべきなんです。この責任を追及するのであればですよ。例えば、この予算でこの程度のアウトプットしか出せないのかと。これは追及できるんですよ。だけど、アウトカムまでっていうとすごく難しいのでね。これでロジックモデルというのは一端破綻したんですよ。いつごろかっていうと、2005年。ただ、努力目標というか、そこでアウトカムを頑張りましょうよっていうのは、これはやっぱり人間性善説を信用して、それで役所がアウトカム、成果主義で行きましょう、これは世界的な合意なんです。だから、余り成果、成果、アウトカム、アウトカムと言わないほうがいいんですが、しかし、アウトカムを放棄しちゃったら、役所は何もしなくなるに決まってるので。そこは大事な話なんですけども、アウトカムだけって言われたら担当の職員がやっぱり気の毒だなと思うときがありますので、目標としていくこともありかと。

○事務局 はい、そうですね。

○OA 委員 今、私が申し上げたのを整理すると、やっぱりロジックモデルは大事にしましょうよと。できれば、アウトカムをちゃんと出してくださいよと。これはいろんなシートを送っていただいているんですけど、評価というのは何でもかんでも評価、評価と書いてあるけど、実は評価じゃなくて、コメントなんじゃないですかっていう。言葉をちょっともう一回考えていただきたいのと、あと、制度って、事務事業実績測定等の制度っていうのは、つまり、ここで考えている指標とロジックモデルを使った説明をする制度というふうに理解していいですね。

○事務局 そうですね。

○OA 委員 はい。わかりました。私は以上でございます。

○座長 お二方、いかがですか。ほかにまだございますでしょうか。

OB 委員 今のお話で、ちょっとだけ確認させてください。

私も、例えば、ヒアリング等でなかなかこの事務事業でアウトカムを出すのは難しいよねというようなものが恐らく出てくると思うんですね。そのような中で、要は評価員のコメントとして、やはりこういう事業に関してはなかなかアウトカムまで設定するのは難しいので、アウトプットで代替するとするのが適切であろうみたいなコメントはよろしいのでしょうか。

○事務局 そこは、なるべくアウトカムまでということを基本的には持っておきたいところですが、無理から設定するというところまでは思っておりませんので、先生のお考えのところでコメントをいただければと。

OA 委員 こういう言い方ってあるじゃないかと思うんですよ。

例えば、道路を作りましたと。いい道路ができましたと。それを市民が使うかどうかは市民の勝手なんですよ。ただ、できればね、市民が使うように努力してくださいと。成果が出るようにね、努力してくださいと。努力がね、どれぐらいあなた方が頑張ったら努力が報われるのかと。そういう書き方ですよ、きっとね。エビデンスということであれば、1年間使ってみてね、当初は何台の予定だったが、道路を予算要求したときにもっと使う予定だったのに実際は使わなかったとすれば、差がやっぱりすごくあるので、それがどういうことなのって説明してよってというお話ですよ。そうすると、所管課の人がとてもつらいですよ。ということです。

OB 委員 はい。ありがとうございます。

○座長 ということで、指標等の考え方というか、やり方というのは、今ご説明いただきましたけれども、先生方、今のご説明でよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

案件3 その他

○座長 それでは、案件の3です。その他でございます。お願いします。

○事務局 その他としまして、「今後のスケジュールについて」をご説明をさせていただきます。

今後のスケジュールでございますが、先ほどの①、②、③の区分の対応ともう一度ジャンル分けしてお示しするというのもございますので、今日、いろいろいただきましたご意見を踏まえて、改めて事業一覧をメールでお示しをさせていただきたいと思っておりますので、内容をご確認をいただきたいと思っております。ここではいろいろ事務局一覧を9月下旬に評価員からの質問事項一覧を事務局に送付等々ございますが、事業のくくりとかというところもちょうと整理する関係もございまして、一端ここでお示しさせていただいておりますのは、こういったところで思っていたということでご理解いただければと思っております。

ただ、ヒアリングについては、これは行っていただきたいと思っております。若干、都合等、

日程のスケジュール等ございますので、10月8日に第3回から第6回のヒアリングということで、以降お示しをさせていただいておりますが、ヒアリングのスケジュールについてはこうしたところで今、調整をしております。

ヒアリングの実施につきましては、評価員の皆様のスケジュールを調整させていただきましたところ、1日単位で皆様方がお揃いできる日が調整がつかないということもございまして半日の開催ということになっております。時間の関係上、3回の開催では全てのヒアリングを終えることが難しいということもございますので、当初ご説明させていただいたヒアリングは3回でございましたが、4回ということになっております。10月8日を皮切りということでヒアリングをさせていただきますが、想定としましてのヒアリングを終わってと同時に、先ほどご議論いただいております個別事務事業の評価シートの作成にはご着手いただくことは可能なのかなと思っておりますので、余り負担がないようにということになっておりますので、またそのあたりのご提出、現時点での予定ということでは10月6日ということになっておりますが、またそのあたりについてもご相談させていただきたいと思っております。最終的には、12月下旬に開催予定の第8回評価員会議でヒアリングや評価設定などを踏まえた基本指針案を事務局のほうで作成させていただいて、一度またこれについてご助言をいただきたいというふうになっております。その後、年明けの1月上旬に最終的な基本指針案の決定、2月中旬に指針の策定と思っております。

今後のスケジュールについては以上となりますが、画面の米印のところにも記載しておりますが、会議の開催形式につきましては、所管課へのヒアリングを実施します回につきましては、こちらの方にお集まりをいただきたいと思っております。マスクの着用や消毒液の設置、また、適宜会場の換気を行うなど、十分な対策を取りながら、会場にお集まりいただく形で開催をさせていただきたいと考えております。この点につきましても皆様方のご意向をお聞きして進めてまいりたいというふうになっております。よろしく願いいたします。

○座長 はい、ありがとうございます。今日の案件はこれでよろしゅうございますね。

○事務局 1点だけご説明させていただきたいことがあります。

先ほど確認いただいております実際に評価を記入いただくシートについてなんですけれども、評価員評価の欄について、評価員のコメントではないかと指摘いただいております点ですけれども、こちらはエクセルで作成して、プルダウンで選択できるようになっております。選択肢は所管課の当初案、行革推進案、所管課最終案、それとその他という区分としておりまして、その4つから選んでいただければということで書かせていただいております関係で、評価員の評価という形でお示しさせていただいております。

その下の評価理由というところにつきましては、コメント、評価コメントとなるのか、どういう書き方がふさわしいのかということになりますけれども。

○OA委員 わかりました。言葉でお時間を取らせるのも申しわけないので。私は評価員コメントのつもりで書きますので、そのままで結構です。

○事務局 申しわけございません。よろしく願いいたします。

○座長 では、よろしいですか。事務局のほうにお返しします。

○事務局 ありがとうございます。

そうしましたら、座長、進行ありがとうございました。それでは、一旦事務局でご意見をもう一度整理させていただき、改めてまた連絡させていただきたいと思います。本日はありがとうございました。